

第173回 番組審議会

- 1.日 時 平成20年6月4日(水) 12:00~
- 2.場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
- 3.委 員 委員総数 13名
出席委員数 11名(欠席委員数 2名)

出席委員(敬称略)

谷口 誠(委員長)
佐尾 玄(副委員長)
-以下50音順-
齋藤 純
齋藤 雅博
東海林 千秋
菅原 正二
土樋 靖人
中原 祥皓
村上 幸子
八木橋 伸之
吉田 浩次

会社側出席者(6名)

内海 幸司(代表取締役社長)
佐藤 滋樹(常務取締役)
小原 忍(常務取締役)
藤澤 利憲(常務取締役)
前田 秀男(取締役技術局長)
松舘 守(めんこいエンタープライズ 制作部長)

事務局 後藤 望

4. 議 題 『山・海・漬』城下盛岡旧町名ぶらり旅

～材木町かいわい～

平成20年5月17日(土)18:30～19:00放送

5. 議 事 概 要

今回は『山・海・漬』城下盛岡旧町名ぶらり旅～材木町かいわい～について審議した。

各委員からは「宮沢賢治の本を景品に配っているのを見た、とかの時代証言を映像で残すことは重要なこと」、「落ち着いたテンポの番組で、これが本当のテレビの良さと思った」、「この企画は、色々な形で続けていくことが出来ると思うし、ぜひそうしていただきたい」などの意見が出た。

また「この番組に限らず、食べる番組の場合のコメントは事前に練っておいたほうが良い」、「“まちづくり”の問題提起も欲しかった」との指摘もあった。

6. 議 事

事 務 局

ただいまより第173回番組審議会を開催いたします。今回の議題は5月17日に放送されました『山・海・漬』城下盛岡旧町名ぶらり旅～材木町かいわい～です。本日は、ディレクターのめんこいエンタープライズ・松館部長が出席しております。

それでは、谷口委員長、よろしくお願いいたします。

谷口委員長

では、本日の第173回番組審議会に入らせていただきます。

松館さんから、番組の背景などについてご説明やご感想をお願いしたいと思います。

松館ディレクター

めんこいエンタープライズの松館と申します。本日はよろしくお願いいたします。

「山・海・漬」の放送開始は1996年10月です。スタートして10年以上たっており、めんこいテレビの長寿番組です。本日の番組は第492回で、来月は500回を迎えます。同じような番組として、テレビ岩手の「夢見るピノキオ」がありますが、今年の3月に561回で終了しました。来年半ばには、この回数を抜くことが出来ると思います。

今回は「城下盛岡旧町名ぶらり旅」という企画です。この企画は、おととしの6月から始まり、大体3カ月に1回放送をしています。

過去には、本町界限、内丸、惣門、八幡町、肴町、紺屋町を取り上げてまいりました。今回は、春になって「よ市」も始まり、観光客も増え、一番タイムリーな場所と思い材木町を取り上げました。

岩手地区は毎月第1週と第2週が視聴率調査期間に当たっています。今回の番組も視聴率調査の対象で、結果は16.3%と非常に高い数字を獲得できました。その週に放送された各局のローカル制作番組の中ではナンバーワンの視聴率です。視聴率の調査期間は各局が色々と数字がとれる派手な企画をぶつけてくるのですが、このような地味でゆっくりしたテンポの番組が、これほどの視聴率をとるといのは、なかなか無いことだと思っています。それだけ「山・海・漬」が好きで長い間見て下さっている方が多くいらっしゃると思っています。

先日、フジテレビの編成部の方に「山・海・漬」を見ていただく機会がありました。その方の感想も「どうしてこれがそんな数字をとれるの」と驚いておりました。「レギュラー番組は、数字をとるために、番組の本編のサイドに内容説明のスーパーを出しっぱなしにしていたり、出演者のコメントをそのまま大きいテロップに出したりして、工夫をするものなのに」というのがフジテレビの方の意見でした。そういうことが一切ありません。「まるで昭和時代のテレビを見ているようだ」というお話をいただきました。

レギュラー番組ですので、ロケ日が2日しかなく、1カ所の撮影に2時間ぐらいしかかけられません。例えば、南部古代染の場面は、時間をかけてきちんと照明を当てればもっときれいに撮れたと思うのですが、そこが、いつも残念に思う部分です。

この企画は、城下盛岡23町ですので、そのうちネタがなくなると思います。ネタがなくなっても「懐かしの風景」のような企画を引き続き作っていきたいと思っています。

谷口委員長

どうもありがとうございました。それでは委員の方から順番にコメントをいただきたいと思っています。まず、土樋委員からお願いいたします。

土樋委員

最初見たときの印象は、お茶漬けさらさらというか、どんと胃がもたれるような感じはな

くて、非常に爽やかな番組だなと思いました。フジテレビの方が「何でこれが視聴率をとれるの」と言ったそうですが、「これで視聴率がとれるんですよ」と逆にこちらから訴えるものがあると思います。フジテレビにこのような作りも考えてみたらどうか、と言っても良いような気がします。

材木町は、昔から好きな町でした。東京とかからお客さんが来たときに大体連れていくスポットです。私が秋田にいたときは、「商店街が衰退化して、何とかならないかな」との話を聞いたとき、「盛岡の材木町を視察してきたらいいヒントが得られるかも」と紹介したこともあります。何度も行っているところですが、まだ知らなかったこともありましたが、非常に参考になりました。長寿番組になるとテーマ選びも大変だとは思いますが、これからも長く続けていただきたいと思います。

谷口委員長

どうもありがとうございました。次に、齋藤純委員からお願いいたします。

齋藤純委員

今、材木町と、鉾屋町は、盛岡のトレンドーだと思っています。そういうときにタイミングよく番組が放送されたと思いました。視聴率の話も聞いて、やっぱりそうかという思いがしました。

「光原社の本当の場所はここではなかった」と主人が言ってくれましたが、よくぞ言ってくれました。今までみんな知っていて黙っていたことです。あそこに光原社跡という石碑が建ったことでなんとなくここだということになってしまった、ということです。

それから、光原社と盛久旅館は親戚で、柳宗悦が拠点にした場所でもありました。光原社と盛久旅館で日本の民芸運動が盛岡に持ち込まれた。そんなこともこの番組を見ながら思いを馳せました。奇しくも私が編集している「街もりおか」6月号で材木町のことを東海林委員と、もうお一方に書いていただいております。お読みいただければと思います。

谷口委員長

どうもありがとうございました。次に、菅原委員からお願いいたします。

菅原委員

全く何も問題なく、番組も盛岡も非常にいいですね。旧町名を残すというのは、大事なことだと思います。余り改善しないで残すということは大事です。いいところがあればあるということが盛岡の実力ですね。うちの兄貴の嫁さんが鉈屋町で、あの辺はよく知っていますし、八幡にも、昔「伴天連茶屋」というジャズ喫茶があってよく行っていました。

それから、馬がすごくいっぱいいたとかの昔の話、昔のモノクロの貴重な写真も良かった。

気になったのは、いつものことですが、女性アナウンサーが食事を食べる場合のコメントです。甘くておいしいとか、肉を食べると柔らかくておいしい、それから食べやすい、こういう発言は、どの番組も同じですから、もう少しひねった表現をしてほしい。例えば苦みがなく食べやすいという発言があったような気がしましたが、苦みこそは味の究極のものですから、ほんのり苦くてとってもおいしい、とかですね。それから肉は歯ごたえがあって適度に硬くておいしいとか、これはちょっと癖があるけども、病み付きになりそうとか、そういう逆の発言が必要だと思います。どの番組を見ても、柔らかくておいしい、食べやすい、です。それなら流動食を食べていければいいのでは、と思ってしまいます。この番組に限らず、もう少し工夫していただきたい。

それから、日本酒を飲んだ場合、フルーティーでまるでワインみたいという言い方がありますが、あれはワインに負けているという前提のもとに言っていることになります。まるでワインのようというのは、ワインのほうが上等ということになり、日本酒に対して大変失礼であります。今日は久慈委員（蔵元）が欠席で残念です（笑）

この番組だけではなく、食べる番組の場合のコメントは少し事前に練っておいたほうが良いのではと思います。今回気になったのはそのぐらいで、あとは全部非常に良かった。盛岡はいいところですね。私は一関で残念に思います。

谷口委員長

ありがとうございました。次に、八木橋委員からお願いいたします。

八木橋委員

全体的な感想は、非常におもしろくて、時間が短く感じました。はっきり言ってうるさい番組とか宣伝が多い中で、あのぐらい落ちついているほうが見やすいという感じがしました。

小野寺瑞穂さんの非常に静かで派手に騒がない語りは、特に古いもの紹介するときとはとて

も良いと思います。

「山・海・漬」については、以前からここで議題となり、各委員、好き勝手なことを言っておりましたが、今回はほとんど文句をつけるところがないくらい良くなっていました。故事来歴の拾い方とか、エピソードの入れ方とか、全部自然に入っていて、とても良かった。

それから、そのうちネタ切れだという話がありましたが、そんなことを言わずに、例えば古い建物シリーズ（町屋でまだまだ取り上げられていないところとか）など、ネタはたくさんあると思いますのでぜひ続けてください。

それから、宮沢賢治の本を景品に配っているのを見たとか聞いたとかという話は直接証言で、映像に残るわけですから、数十年たつと、立派な証言になると思います。上野にある横山大観の記念館での話なども直接証言で時代証言です。ぜひ映像で残しておけば、アーカイブではないけれど、編集すると使えるというのは、非常に重要なことだと思います。それから、型染めの来歴についての話も非常におもしろかった。

気になったのは、夕顔瀬橋の位置がいつのことを言っているのかということでした。私の幼年時代の記憶とちょっと違うな、と思いました。

それから、このシリーズで、毎回、盛岡の古い絵図面が出ます。材木町は昔川原だったのですが人が住み着いてきて、町になった。砂州が出来て町になったという、その辺が図面だけでは分かりません。江戸時代の図面で北上川がお城の下で中津川と合流していた時代から、だんだん北上川が西へ押されて、大沢川原とか材木町ができた。いつの時代の図面なのか、古図を見るとよく分からない。欲を言えば、その辺のところを解説してもらえばありがたいという感じがしました。

谷口委員長

どうもありがとうございました。次に、斎藤雅博委員からお願いいたします。

斎藤雅博委員

「山・海・漬」の旧町名ぶらり旅シリーズというのは、盛岡に住んでいながらも知らなかったことや、気づかなかったところを紹介してくれて、そういう意味で楽しい番組でした。

今回の番組で知らなかったのは、酒買地蔵尊で、私にとっては発見でした。

それから、光原社の本の注文がほとんどなかったというのはびっくりで、ああ、そうだったのかと思って見ておりました。

それから、クルミクッキーというのは非常においしくて、友達にお土産にしてあげるとすごく喜ばれます。

寄せ豆腐の工藤さんの生涯現役という心意気は非常に良いのですが、心配なのは後継者です。盛岡で絶滅危惧業種と呼ばれる産業がありまして、例えば盛岡芸者もそうです。こういうものは地域で支えないと残らないと思います。工藤さんが、ほかにもまだ何軒か途絶えそうな店が何件かあると話していましたが、ちょっと心配になりました。南部古代染めの小野さんは17代目ということでしたので、そういう伝統を残してくれている人で、何とか継いでいていただきたいと思いました。

それから、やっぱり「よ市」は盛岡市民に定着しているし、あそこを歩くと安らぎ感があるので、非常にいい「まちづくり」をしたなと思って見ておりました。

ぶらり旅シリーズは、新しい発見を求めて、ぜひ続けていただきたいと思いました。

谷口委員長

ありがとうございました。次に、中原委員からお願いいたします。

中原委員

この番組は私にとって目新しいものは一つもないという感じで見ましたが、昔の夕顔瀬橋が出てきて今と対比していることにちょっと感心しました。豆腐屋さんが、かつては50年前、百軒あったのが今は五、六軒しかないという。ああ、そうかという部分が出てくると、材木町を見慣れている人も興味を持ってくださるだろうと思います。私は「よ市」を作ろうと立ち上げた時からずっと取材した経験があります。その裏表もずっと見ている人間にも、「ああ、そうか」というものを掘り起こして出してくれば、また別なおもしろさが出てくるのではないか、ということです。それで、小野染彩所の小野信太郎さんの話しっぷりも元気で、「ああ、お元気で何より」とこの番組で感慨新たなものを見せていただきました。

下宿の賄いの場面は、ほかのテレビ局の番組でも結構長く放映していました。そちらの方が印象が強く、めんこいテレビはそれをちょっと違う角度で放映してほしかったなという思いはします。

それから、材木町で一番の問題は今何かというと、平日の人が少ないということです。そこを誰かに語らせたりして、先に明るいものを感じさせてほしかったなと思います。この番組の趣旨からいうと、まさにぶらりであって、問題提起ではないとは思いますが、

普段そういう状況なもので、こういう素晴らしい資源がありながら、先々どういう明るいものがあるのかなという思いもさせられるわけです。こういう視点で見る人もいるぞということも考えないと非常に軽い番組になってしまうと私は思いました。

ただ、全体とすれば、改めて材木町の良い面を見せていただきました。2日間のロケということだから、何もかにもということは不可能でしょうが、さきほど言ったような視点で見る人もいることも視野に入れたなら120点の番組になったのではないかと思います。

谷口委員長

どうもありがとうございました。今度は村上委員にお願いいたします。

村上委員

「山・海・漬」らしく、安心して楽しく見ることができました。

町内会長さんのお話で「川縁に積まれた石垣は、川が暴れていたところに町の人たちがそれぞれ積んだ」ということで、なるほどと思いました。確かに対岸から見ると石の大きさも違います。それが真ん中で盛り上がった中州で支えられていた。そういう写真を初めて見ました。

工藤豆腐店の寄せ豆腐の「寄せ」の意味は、普通お豆腐は型に入れて重石をかけて水を抜きます。寄せ豆腐は器に流し込んで水を抜かないでそのまま固めます。それが寄せるといことらしいです。大きい器から掬って小さな器に入れて売るのが盛岡の寄せ豆腐です。召し上がるときは、ショウガをたくさん入れておしょうゆかけて食べます。

光原社は、私も地元に住んでいながらふっと立ち寄りたくなる、本当に不思議な、すてきなお店だと思います。観光客の方には宮沢賢治の初出版の店ということで、憧れの店であることは間違いないようです。及川家が関わっていた光原社や盛久旅館（今はギャラリーとなっています）は盛岡のハイカラでモダンな文化の象徴だとも思います。及川四郎さんという賢治と直接接点のあった方もすごいモダンボーイで、すてきな方だったそうです。いろいろな文化にすごく関心の高いご一族だったようなので、ぜひ発掘して番組化していただくと楽しいかなと思います。

材木町には県外の方々にも来て見ていただきたい。「よ市」もこれから盛り上がりますので、本当にいいタイミングで見せていただいたと思います。

谷口委員長

寄せ豆腐のことなど、色々とお話いただきありがとうございました。次に、東海林委員からお願いいたします。

東海林委員

この番組は放送1週間以上前から材木町振興組合の組合長さんに「5月17日は『山・海・漬』の材木町特集なのでぜひ見てください」と言われていました。松館ディレクターが視聴率のことをお話しなされたときに、これで視聴率悪かったらどうしようと思ってしまいました。材木町だけでは90%は取れていたと思います。

材木町イコール「よ市」というイメージが強いのですが、もともと「よ市」は商店街の振興のためにやっていることです。「よ市」を開催する土曜日はたくさんの人でにぎわうのですが、平日は本当に人が通っていません。できれば「よ市」以外の材木町を取り上げてほしいというのが私たち住民にとって思うところです。今回の「山・海・漬」は、「よ市」だけではない材木町を番組で取り上げてくださいました。振興組合の組合長も「このような番組を作りたい」ということがそのまま形になっていたような気がする、と話しておりましたので、お伝えをしておきます。

夕顔瀬橋のお話をしていたのが茅町自治会長ですが、茅町と材木町というのは、いまだにお花見も別々にやるし、忘年会も別です。茅町は今とはとりあえず材木町ですが、めんこいテレビが、茅町の夕顔瀬橋のことを、材木町町内会長にではなく、茅町自治会長に取材なされたということで、事前調査が行き届いていたな、と感心しました。

谷口委員長

どうもありがとうございました。次に、今度は吉田委員からお願いいたします。

吉田委員

実は、私は茅町で生まれ、育った人間で、何とんでも私が一番この番組の内容については詳しいでしょう。20年も住んだところですから、いまだに茅町、材木町については店の一軒一軒を鮮明に覚えております。このような番組はできるだけ後世に伝えてもらいたい。昔の町並みをもっと再現してもらいたいのです。私はそういう意味で、ちょっと物足りなさを感じました。材木町、茅町は、下町の賑わいで溢れかえってました。特に茅町は金物屋さんがあって、みそ屋さんがあって、酒屋さんあって、呉服屋さんあって、肌着屋さん

があって、そこに住んでいる人たちが必要なすべての商品が商店に並んでいました。うちは駄菓子屋でした。馬のひづめを直すようなところもありました。あそこは夕顔瀬橋を渡らないと北に渡れなかった街道です。私が小学生のころ、馬車と、冬ですと馬そりがばんばん引かれていました。その後ろに隠れてスケートを履いて引っ張ってもらったという思い出もあります。

私は昭和16年生まれですが、その当時の町並みの状況はいまだに覚えています。その当時から住んでいる人がまだまだたくさんいますので、例えばここにはこんなものがあった、あんなものがあった、と昔を再現してもらいたかった。

材木町あるいは茅町の裏側には、神社がありまして、毎年夏になると、祭りがありました。それも、こんなことがあった、あんなことがあった、と紹介して欲しかった。

写真で出ていた古い長屋街の裏は全部田んぼでした。岩手高校のあたりまでが田んぼで、小川が流れていて、メダカやドジョウが採れました。本当にのどかで大変いい町並みでした。そんなことも紹介してもらえればよかったと思いました。

今「まちづくり」というのが盛んに言われていますが、これからの「まちづくり」は下町性とかにぎわい性が一番求められると考えます。そういう意味で、昔のにぎわい性はこうだったということは、何か「まちづくり」のヒントになったのではないかと思います。これからもシリーズで「旧町名ぶらり旅」を作っていくとのことですが、できるだけ昔のことを掘り起こし、そこに番組のウエートを置かれたらいいかなものか、と感じました。

それから、やっぱり町名の由来をできるだけ詳しく教えてもらいたいと思います。例えば茅町は、私の祖母、祖父から「茅葺の職人が、多く住んでいたのが茅町となった」と教えられました。南部藩との関わりでの町名由来などもあります。町名由来の紹介は、この番組に重みがつき、ますます視聴率が上がるのではと思いました。

この番組は、ゆっくりしたテンポで本当に見ていて疲れません。これが本当のテレビの良さです。これからもこの番組を大事に育てていただきたいと心から思います。

谷口委員長

ノスタルジアと言ったら失礼に当たりますけれども、本当に気持ちのこもったコメントをいただきましてありがとうございました。次に、佐尾副委員長からお願いいたします。

佐尾副委員長

私も材木町は非常に好きな場所で、盛岡は3回勤務で昭和57年、平成8年と今度の17年で10年置きぐらいで行っています。コミュニティ道路ができたとき、古きよき時代と近代性というものが一体となり、雰囲気が変わったと思います。

私の仕事柄、材木町は無電柱化するときに相当難儀した場所でした。町内会の方々、道路管理者の方々と一体となって何とかしようということで無電柱にしました。材木町は電柱が一本もありません。電話線もありません。そこに特徴があり、随分雰囲気も変わったかなと思っています。映画館通りも、無電柱にしましたが、余り変わりようがなく、完全に潜ただけという感じになっています。八幡町も無電柱化を進めていますが、材木町のように道路管理者と電線管理者と町とお店が一体となって進める力はまだまだ足りなく、私ども東北電力がリードさせていただいているという感じになっています。

今、盛岡商工会議所で100年以上継続している商店を表彰しています。そういうお店にターゲットを当ててシリーズを組んでいけば、この番組がずっと続くのではと思います。ヒントとなれば幸いです。

谷口委員長

どうもありがとうございました。次に欠席委員からのレポートをお願いします。

役重委員レポート

盛岡、材木町と聞いただけで心惹かれるというか、粋なまち、ゆっくり歩いてみたいまち、
というイメージを持ちます。実際に私はゆっくり歩いたことはあまりないのですが、情報としては色々見たり聞いたりしていました。今回の番組は思った以上に話題が豊富で、楽しめる情報番組、かつ「行ってみたいな」と思わせる作りになっていたと思います。

そのコツは、やはり材料の取り合わせ方にあるのかなと感じました。というのは、今やポピュラーな光原社界限やパンションのレストランなど、通りを歩きながらだれでも気軽に、構えずにヒョイと入れるスポットと、一方で寄せ豆腐屋さんや南部型染めの2階の展示室など、一般にはちょっと入りにくい、テレビで取り上げてくれて初めて分かるような「知る人ぞ知る」的スポット。この組み合わせが視聴者の気を惹くポイントでしょうか。

知ってることばかりじゃつまらない。でも知らないことばかり並べられるとちょっと引い

てしまう。そんな人間の心理ってありますよね。番組作りもその辺のツボを押さえているのかなと感心した次第です。

ところで、昔の地図や写真を多用して今の町並みとの連続をイメージさせるのは非常に良かったと思いますが、せっかくゆっくり歩かせてみたい材木町であれば、駅からの道のりとかバス路線なども紹介しても良かったのではないのでしょうか。でんでん虫バスはマイカーに慣れた若い人たちにも気軽に使いこなせますね。ガソリン高騰の時代、公共交通の良さも見直してみたいものです。(蛇足ですが、この4月からワタクシ市役所の公共交通担当部局に配属になりました。利用者激減・財政負担増の中でどうやって交通弱者の足を守るのか、大変「苦」しております)

久慈委員レポート

まず、町に注目して特集しているので、かなり知らないことが多いことに驚きました。今回は材木町でしたが、江戸時代に染めた着物や、宮沢賢治のモニュメントで手作りふるさと大賞をとったことなど、ローカルですが、面白い話題が多く、新たな発見につながりました。その中でも酒買地蔵のお話は、私も知らなかったのが驚きでした。説明も絵を使って分かりやすくしていたことも好印象でしたが、本当にお堂にお酒を入れておくと空になるんですかね？ビールやウイスキーでも空になりますかね？

それから町の表だけではなく、裏にも足を運んで紹介していたのが印象的でした。これも「町」に注目して特集するからできることでしょう。「盛岡特集」では決して出てこないようなローカルなお話が楽しかったです。

ただ、私は盛岡市民でもありませんし、テレビを見ている方も盛岡の方々だけではありません。「よ市」というメジャーなイベントがあったから材木町という地名もピンとききましたが、その場に住んでいないと、なかなかイメージが湧かないところを、この町特集では注意しないといけないのかな、と思いました。私の住む二戸市なら「五日町特集」みたいな感じでしょうから、ほとんどの方がイメージわかりやすいですね。

事前に町の説明もしっかりありましたが、これからは町の選定の仕方や紹介の仕方を、メジャーでなければならないほど注意したほうがいいと思いました。

谷口委員長

どうもありがとうございました。総評は全く皆さんもうお話しになったように、私は非常

にいい番組であったと思います。爽やかで、盛岡が持っているアットホームなところをよく取材したというのが全員のコンセンサスであったと思います。「山・海・漬」は、ぜひこれからもいろいろ掘り起こして続けていただきたいという希望がありました。これからはやはり町名の由来とか伝統とか、アーカイブをもとにさらに掘り下げた番組をつくっていただければもっと良くなるという意見もございました。

最後になりますが、この3年間、佐尾副委員長には大きな貢献をしていただきましたし、私が欠席したときは佐尾副委員長が委員長を代行していただきまして、非常に感謝しております。3回も勤務されただけに、私のように盛岡在住4年ごときでは、とてもとてもこの委員会は務まらないところを助けていただきました。深く感謝しております。今後仙台のほうに帰られますけれども、ますますご健康で、また我々の番組も見てください、あるいはいろんなアドバイスをいただき、よろしくお願ひしたいと思ひます。

事務局

佐尾様にごあいさつをよろしくお願ひいたします。

佐尾副委員長

3年間、委員として務めさせていただきました。私は、電力会社に37年間籍を置きまして、今月末で退任することとなりました。電力会社に長くいますと電気の電のつく関係者とはばかり話をしておりまして、狭い範囲でのおつき合いが多いのですが、この番組審議会では多様な職業、そして価値観を持った方々と一緒に番組を見ながらディスカッションでき、私の人生でも非常に有意義な3カ年だったと思ひます。大変ありがとうございました。

谷口委員長

どうもありがとうございました。それでは、本日の審議会を終わらせていただきます。

事務局

今回の審議会の模様は、6月14日(土)朝4時42分から「めんこいテレビ番審リポート」として放送いたします。次回は、7月2日(水)を予定しております。本日はありがとうございました。